

駒ヶ根市文化財

名称	蔵澤寺の三門
種別	建造物
指定	市・有形文化財（平成 23・12・27）
所在地	中沢 4815
所有者	蔵澤寺
説明	<p>蔵澤寺(ぞうたくじ)は曹洞宗の禅刹で、広善山と号し、毘盧遮那仏(びるしゃなぶつ)を本尊としている。</p> <p>開創は室町時代の応永年間、開基は中沢の高見城主倉沢但馬守重清と伝える。慶長 4 年(1599)、来円宗撮大和尚により中興開山された。</p> <p>三門は、三間一戸楼門(ろうもん)(間口 5.3m、奥行 3.2m)で、屋根は入母屋造(いりもやづくり)、棧瓦(さんがわら)葺とする。変わっているのは、参道入り口側ではなく、本堂側に軒唐破風(のきからはふ)をつけている点である。</p> <p>造立に関する史料として、二階に寛政 9 年(1797)「広善山三門造立記」の木札がある。寺の説明板によれば、九世が高遠番匠伊藤常八尉良長に命じて鐘楼門として造らせたという。建築様式からも、寛政年間の建立と考えられる。なお、大正 7 年(1918)に瓦葺にしたときの木札も残る。</p> <p>この楼門は、二階の立ちがきわめて高い点も特徴で、いかにも江戸時代後期の様式を示しているが、これは、一段高い位置にある本堂からみて、立面が低くみえるのを防ぐ工夫と考えられる。この時代の建築としては彫刻が少ない点も特徴であるが、組物は一階を和様(わよう)、二階は禅宗様(ぜんしゅうよう)として使い分けており、大工の建築様式に対する意識の高さを伺うことができる建築である。</p>



蔵澤寺三門 正面



蔵澤寺三門見上げ